

**地下鉄短信 (第379号)** 平成30年11月29日発行

編集 (一社)日本地下鉄協会 責任者 向田正博

電話 03-5577-5182(代) FAX 03-5577-5187

**記事 ○「平成30年度職員の安全教育に関する研修会」の開催****○「平成30年度職員の安全教育に関する研修会」を開催しました。**

去る11月22日(木)にエッサム神田ホールにおいて「平成30年度 職員の安全教育に関する研修会」を開催しました。この研修会には、当協会会員の東京メトロ、東日本旅客鉄道(株)など20社局から安全管理部門の管理職45名の参加を得て実施しました。

はじめに、(株)社会安全研究所 技術顧問 立教大学名誉教授の芳賀 繁氏を講師とし「安全でしなやかな現場力の創造～レジリエンス・エンジニアリングに基づく新しい安全マネジメント」を題材とした講演を行いました。講師の芳賀 繁氏は、京都大学大学院で心理学科を修了して国鉄に入社し、鉄道労働科学研究所、JR 鉄道総合技術研究所で鉄道の安全に関わる心理学、人間工学の研究に携わり、立教大学心理学科教授などを経て、本年4月より現職に就かれております。また、ヒューマンファクター、安全マネジメント等に関する研究・学会活動のほか、JR 西日本の「安全研究推進委員会」委員長、日本航空の「安全アドバイザーグループメンバー」等を兼任されております。

**安全研修会 風景**

まず、芳賀氏の講演では、安全性を向上させるなら、システムが想定された条件や想定外の条件下で要求された動作を継続できるよう、自分自身の機能を条件変化や外乱に応じて調節できる本質的な能力が必要であるという「レジリエンス・エンジニアリング」の考え方についてお話しをしていただいた。

**芳賀氏の講演風景**

「レジリエンス・エンジニアリング」では、人間の弾力性がシステムを守っているとの考え方に注目し、現場第一線がルール等を理解した上で、状況を自分で考え、臨機応変に対応することが安全性の向上に重要であるとのことでした。また、安全の定義では、旧来の「物事が悪い方向へ向かうのを避ける (SAFETY-I)」からレジリエンス・エンジニアリングでは「すべてが正しい方向へ向かうことを保証する (SAFETY-II)」という新しい考え方へと変革していることを①安全管理の原則、②事故の説明、③事故調査の目的、④ヒューマンファクターへの態度、④パフォーマンス変動への役割を相互に対比すること

で、その違いについて話していただいた。

具体的には、失敗事例に注目し、その原因を探り、その原因を取り除くことで再発防止を図るのは SAFETY-1、失敗事例でなく普段何気なく上手くいっていることに注目し、成功事例を増やそうとすることが SAFETY-II とのことでした。

また、新しい研修方法の一つとしてクロスロード(ゲーミング)(特定の状況を設定し、その状況にどう対処するか、参加者で議論し、選択を決定する一種のゲーム)を紹介し、設問自体を参加者に考えさせることが有益との話でした。

#### 横浜市交通局 土屋氏の講演



次に、横浜市交通局統括安全管理者の土屋雄二氏の講演では、横浜市交通局の安全に関する基本方針、安全重点施策の目標・達成状況、安全向上のための投資、訓練等についてお話しいただき、安全に関する緊急対応の事例として「障害発生時の初期対応」について紹介していただきました。設備等の障害発生時には、車両、信号、電力、軌道など複数の異なる職種で構成する「緊急対応チーム」を立ちあげ、障害の原因や対応方法を各々の専門分野の視点から調査することで、素早く、確実に障害の原因等が特定

でき、「本復旧対応チーム」に必要な情報を提供できるなど復旧活動の支援に貢献しているとのことでした。

今回の講演後、話された内容について、各講師と熱心な質疑応答を行った後、研修会を終了しました。

(注) 必要に応じ、社内へ転送、回覧などをお願いします。

配信先を変更又は追加した方がよい場合は、新しい配信先の職名、氏名及びメールアドレスをお知らせ下さい。

本短信について、ご意見をお寄せ下さい。

連絡先: mukaida@jametro.or.jp